

令和元年度 弘前大学学生海外PBL事業概要

部局名	人文社会科学部
-----	---------

区 分	内 容
事業名	「フードバンクを用いたSDGs持続可能な地域づくり」を題材とした学生海外PBLプログラム
指導教員	① 人文社会科学部 李永俊（教授） ② 教養教育開発実践センター Shari Joy Berman(准教授)
学生の所属	人文社会科学部 社会経営課程3年生 5名
渡航先(渡航期間)	アメリカハワイ大学（令和元年9月17日～令和元年9月26日）
実施スケジュール	例：令和元年 8月1日～31日 事前調査・英語コミュニケーション実習 // 9月17日 ハワイ島コナ渡航 // 9月18日 Kona Food Bank 訪問・ヒアリング調査 // 9月19日 Wainea コミュニティディナーボランティア // 9月20日 コナ市内視察 // 9月21日 Suabat Donation 貧困に関するワークショップ // 9月22日 Hirosaki Family Day 日本文化紹介（折り紙など） // 9月23日 Food Basket ボランティア（高齢者支援のお弁当作り） // 9月24日 HCCプレゼンテーション&ワークショップ // 9月25日～26日 帰国
事業の概要 ※本事業の目的に照らして、設定した課題を明確にしつつ、事業の成果がはっきりとわかるように記載してください。	1. 目的： 本事業の目的はフードバンクの先進地であるアメリカのハワイフードバンクの実態を視察し、その活動に参加することを通して、フードバンクの運営の仕組みを学ぶことと、学んだことを活かしフードバンクがない津軽地域に「フードバンクひろだい」を社会実装することである。以上の活動を通して、SDGs 持続可能な地域づくりに貢献することを目指す。
	2. 事業概要： 具体的な課題としては次のようになる。①フードロスと子ども貧困に関する実態調査、②世界的な問題であるフードロスと貧困問題についてのワークショップ、③ハワイ島でのフードバンクの先進事例視察、④大学生ができる「フードバンクひろだい」の実施モデルを提案・社会実装する。
	3. 設定した課題： 参加学生の多くは、人文社会科学部経済法律コースに所属しており、公表データ解析を通して、地域課題の発見とその解決策を模索する方法を学んできた。フードバンクの地域モデルは、本県が抱えているフードロス、貧困、環境問題を解決し、持続可能な地域づくりに欠かせないもので、この実験事業の実施はこの地域にとって大きな意義がある。
	4. 期待される成果等： 本事業では、学んだ経済学の基礎知識をPBL学習を通して応用する能力を養う

ことが期待される。また、異文化コミュニケーションや共同セミナーを行うことで、自己表現力や実践的英語力を学ぶことができる。本事業は、フードバンクが存在しないこの地域で新たな一歩となる実験事業である。その意味で社会的、経済的な波及効果は大きい。参加学生らは、現地で学んだフードバンクの仕組みを弘前市の実態に合うように構築し、「フードバンクひろだい」を実験事業として立ち上げた。11月からチラシやSNSなどで市民への食品の寄付を募り、12月にはクリスマス会で80名の子どもたちにプレゼントを届けることが出来た。この事業の意義は地元新聞で大きく取り上げられ、地域住民の関心を集めた。

事業実施の様子
※ 事業実施の様子がわかる写真を貼り付けてください。
(最大6枚まで)



【写真1：キャプション】



【写真2：キャプション】



【写真3：キャプション】



【写真4：キャプション】



【写真5：キャプション】



【写真6：キャプション】

今後の展望

現地調査と現地での学びを活かし、参加学生らは「フードバンクひろだい」の取組を内閣府地方創生推進室主催の「RESAS地方創生☆政策アイデアコンテスト2019」に応募し、東北経済産業局長賞を受賞した。また、2000組以上応募チームの中で大学生以上一般の部9組に選ばれ、内閣府で行われた最終審査会にて成果報告を行った。そして、社会実装として実施した事業では、多くの市民、市民団体の協力を得て、食品の回収とこども食堂での配布を行い本事業への地域社会的なニーズが高いことを再度確認した。今後は、本事業の成果を踏まえて、来年度以降、地域のNPO法人などと協力し、フードバンクの取組を持続可能な事業になりうるように検討したいと考えている。